

## 飯野一朗校長特別講義（第2回）が開催されました

飯野一朗校長の第2回目の特別講義が平成30年6月22日（金）に開催されました。

日本のジュエリーの制作技術は武士の使う刀の装飾を作る「彫金」に始まります。明治の廃刀令後は洋風の生活様式に用いられる調度品の他、日本の高い技術を世界に輸出するために精巧な置物などが盛んに作られました。その時代に活躍した名立たる金工師について、相撲の番付表を模して作られた「高名金工彫美術表」という資料を使ってご紹介いただきました。

中でも有名な明治の彫金師 海野勝珉の「蘭陵王置物」、鋳物師の鈴木重吉の「十二の鷹」などの作品について、作品が生まれた時代背景なども含めてお話ししていただきました。

最後に飯野校長が名誉教授を務める東京藝術大学の彫金研究室の様子や学生作品もご紹介いただき、学生達は同世代の学生作品に興味津々でした。

